



当院に在籍しているリハ職種は、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）の3職種ですが、一般的には「リハビリの先生、リハさん」として認識されていることが多いです。今回、Kリハ通信を通して、それぞれの職種がどのような位置づけでどのように日々臨床に取り組んでいるのか、その一部を紹介できればと思います。

当院の言語聴覚療法（ST）部門について

言語聴覚士とは、コミュニケーション（話す、聞く等）や高次脳機能、摂食嚥下機能（食べる、飲み込む等）に低下がみられる人に対して、検査・リハビリテーション・指導・助言等を行い、それらの機能の維持向上を図る専門職です。

自分の意思を伝え、好きな食べ物を食べて、その人らしく生きていくことを支援していく職種がSTです。

摂食嚥下外来の
嚥下内視鏡検査



失語症の
リハビリ場面



当院のST部門は勉強会の機会を多く設けています。**失語症や高次脳機能障害分野で高名な大学病院の医師**を3ヶ月に1度、**症例検討でアドバイスを**いただいています。また**VF（嚥下造影検査）カンファレンス**では新人STでも経験豊富な先輩STと一緒にVFの診かたを学ぶことによって**レベルアップ**を図っています。

退院後のフォローも当院は**大事**にしています。STも参加する**摂食嚥下外来**では、退院後に嚥下機能が低下していないかチェックし、必要があれば自宅での自主トレーニング指導や、食形態の提案をおこないます。

その他にも、つながるリハ（退院後の短期集中訪問リハビリ）や外来リハビリ、デイケア等で**在宅生活を支援**しています。